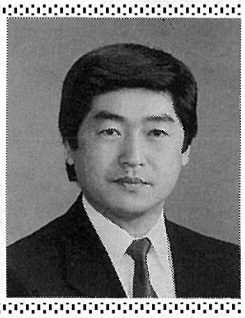
頑張っていますシリーズ

躍進を続ける留辺蘂木工

－「林産技術交流プラザ」木を活かす地域の実践例から－

留辺蘂木工株式会社取締役社長　野尻拓己



去る8月24日，北見市サンライフ北見において，林産技術交流プラザが行われました。このプラザでは，林産試験場の「木と暮らしの情報館」に出展している製品の紹介を兼ねて出展企業自身に自社のＰＲをしていただく機会を設けています。今回は，留辺蘂木工株式会社取締役社長の野尻拓己氏に木を活かす地域の実践例として，自らの企業努力，実践体験を通した貴重なご講演をいただきましたので，紹介いたします。

野尻社長は，自社の発展に心血を注ぐのみならず，多くの団体や審議会などの役員や委員を兼ね，木材業界全体の発展，地域社会の振興にも貢献しています。

スキー製造から木工の道へ

私どもの会社は先代が昭和10年ごろから始めました。そのころは家具，建具など地場の木工屋として操業していました。その中で，**写真１**に示すようなスキーの製造も行っていました。最近は，北海道のこの辺りで造られるものはほとんど無くなりましたが，昔はスキー工場がたくさんありました。このスキーから木工の道へ入っていったわけです。

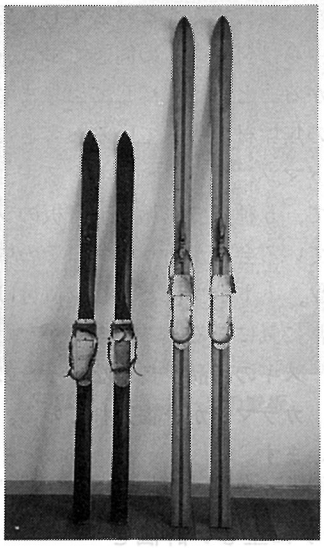


写真１　当初製造していたスキー

その後，昭和30年代に入るとランバーコアを始め，30年代後半からモザイクフロア，いわゆる合板の二次加工といいますか，ラワン合板あるいはランバーコアの上に表面材を張りつけて，周りを本ざね加工してモザイクフロアを作るという商売に変わって行きました。

昭和48年のオイルショックでモザイクフロアの売れ行きが悪くなって，集成材に転換しましたが，そのころからカラマツの羽目板も始めました。その後モールディングも手がけるようにしました。

昔もモールドというものがありました。この留辺蘂辺りにも工場がたくさんあり，先輩の皆様方はご存知なのですが，薄い合板で内装したときに隅とかつなぎ目にかぶせる細い部材がありましたが，これをモールドと呼びました。私どもが今モールディングと呼んでいるものは，それよりもう少し進歩したもので，ドアの周りや窓の周りに用いる細長い飾り加工したものです。

いろいろな変遷はありましたが，現在は集成材，モウルディング，カラマツ，トドマツの壁パネル，それと**写真２**に示すようなシステムラックという，いわゆる組立家具を造っています。

写真２　システムラックの一例

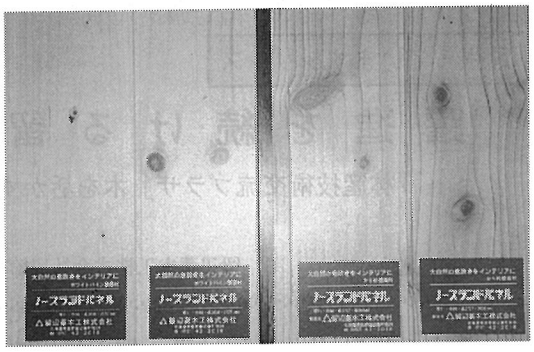


写真３　カラマツ，トドマツの羽目板

高温脱脂乾燥でカラマツ壁面材を製造

今日はいろいろやっている中で，羽目板の話を少ししてみたいと思います。**写真３**に示すものが私どもの製品です。壁板とか羽目板は昭和47年ころから試作を始めて，数年後に少しずつ生産できる状態になってきた。

当時，その前に植えていたカラマツがどんどん成長してきて，協会や林産試験場さんが先頭になって開発に取り組んでいました。私どももそのころに，脱脂乾燥をできる乾燥室を作りました。カラマツは必ず脱脂処理をする，これが我が社の基本的な考えです。私どもが行っているのが，高温蒸煮といわれる高温の蒸気を乾燥室内に大量に送りこんで，材中に含まれるヤニの溶剤になる成分を溶かし出すことによって樹脂分を固形化する方法です。

この乾燥技術については，林産試験場にお伺いして，いろいろアドバイスをいただきました。私どもだけで行うと，試行錯誤と申しますか，いろいろな目茶苦茶なことをやってみて，これならうまく行ったとか，無駄な労力を費やすわけですが，学問的に体系づけられた中でアドバイスをいただきながら，私の父親の代になりますが昭和47，8年ごろにご指導をいただいたということです。

本州市場でカラマツ壁板が高い評価

現況を申し上げますと，長野のカラマツドームでは1,000㎥の材料を使っているということですが，小さく商売をしている私どもでは，昨年１年間に生産したカラマツ，トドマツ壁材の量は約１万坪です。もともとこの量を作る能力はあったのですが，なかなか売れなかった。長い間にようやく年間１万坪売れるようになってきた。市場もそうなってきたし，我々にも売る能力が少しずつついてきましたので，また２倍も３倍も売れるようにしていきたいというのが希望です。

もっと売れるためにはどうすれば良いかということですが，私どもはノースランドパネルという名前で売っています。北海道ではこのブランドで売っていますが，関東，関西では私どもの営業力だけでは難しいので，大手の建材メーカーの名前で，中身は全く同じで箱だけが違うものもあります。将来は我々以外のブランドで売れるものも増やしていきたい。お互いに競合することはあると思いますが，競合することは必ずしも悪いことではない。中身は自分のもの同志でぶつかりながら，市場が広がることにも期待しております。

私どもの無垢（むく）材を扱っているお客さんで，カラマツ，トドマツにさらにヒノキ，スギ，スプルースを加えて，５種類で無垢の羽目板のシリーズとして売っている会社があります。その中で私どものカラマツ，トドマツはどんな位置付けかということは非常に気になるところですが，たまたま他のヒノキ，スギの商品が良くなかったのかも知れませんが，カラマツが一番売れている。大変力強く思っています。

カラマツに正しい評価を

そこで皆さんにお話したいのは，今まで俗にカ

ラマツというとねじれる，割れる，ヤニがでる，ろくなものではないということで，まま子扱いされるきらいが非常にありました。これからも続くのかも知れませんが，ここで「あなたは実際に加工したことがあるのですか」という話をしたいわけです。ものによっては，例えば角材にして乾燥すると，確かにねじれたり，割れたりしてどうしようもないものもあります。ねじれたものを四角にするのですから，歩留まりも悪くなる。

しかし，壁板のように薄い板ですと，多少ねじれてもその分は両側で押さえられるから，施工するときにほとんど問題がありません。それときちんとした乾燥を施せば，狂いもねじれも非常に小さく抑えられて，加工上もほとんど問題がない。実際に，**写真4**に示すように，私の自宅にも使って，そのことを実証しています。

そんなことで，カラマツが使いにくい，悪いということではなく，使う場所，使い方によっては，加工の仕方によってはヒノキやスギにも劣らないで，むしろお客さんの方からは喜ばれている，そういう材であることを認識し直したいと思います。

写真4　玄関ホールの壁板

資源事情から，トドマツ壁板に将来性

現状では，壁パネルは1万坪，材積にしておよそ1,000㎥の製材を使っております。そのうちの8割がカラマツ，トドマツは2割程度ですが，今後トドマツの量を増やしていきたいと考えています。

壁材に対する今後の資源的な見通しですが，今後も円滑に生産を続けていくとなると，カラマツはまま子扱いされたこともあったでしょうが，最近はあまり植林されていない。そうしますと，今育っている原木がどんどん大きくなっていくと，細いカラマツは近い将来無くなる。我々のカラマツの壁材は，トドマツもそうですが，小径木，末口の直径で18㎝下くらいの原木から採っています。その理由は，大きくなると節も大きくなるし，ヤニつぼなどの欠点もすべて大きくなるからです。

設計業者から結構電話がありまして，幅20㎝あるいは15㎝くらいの羽目板ができないかという問い合わせがあります。理屈の上ではできますが，そういう幅の広いものを作りますと，太い丸太から採らなければならない。そうすると，節も大きくなりますし，その他の欠点も大きくなるので，結果的にはできませんと答えざるを得ない。

そんなことで現在では小径木から採っています。これから無節の大径材が出てくるようになれば別ですが，中間的な原木からなかなか壁材を採ることは難しい。

そういうことからカラマツ小径木の入手については，今はまだ大丈夫ですが，近い将来難しいのではないかと思っています。

一方，トドマツに関しては，植林がどんどん行われていますので，我々が一番欲しいという人工林材の入手は容易になっていくと思います。またスギ，ヒノキと比較して肌が白いということで，一般都会の消費者には案外受けている。赤くない，白いというのは清潔感がある。色合いからも資源的な背景からも，もちろんカラマツもやれるところまでやっていきますが，今後はトドマツは有望ではないかと考えています。

カラマツ，トドマツの品質に自信を持とう

さらにお客さんに使っていただくためにということですが，カラマツのノースランドパネルを送っ

たところ，こんなに節があるのなら恐ろしくて使えないという話が年に何度かあります。そういう方は初めてお使いになる設計事務所であったり，大工さんはこんなもんだと思っていても，現場の帳場さんが，こんなに節があったら検定の時に受からないのではないかというような心配をされるわけです。ですが，そんなときには心配しなくてもいいですよ，これは全道あちこちで使っていただいて，問題になったこともありませんし，カラマツには節はつきものですと説明すると安心して使っていただける。

表１に最近の施行例を紹介していますが，これはごく一部で，民間を少なく官公庁を多く載せています。これだけたくさんの施工例がありますが，張った後のヤニや狂いなどのクレームは，ゼロではありませんが，ほとんど無いといってよいくらいの量です。例えば電話のやりとりで納得したという程度のものが，１年に１件あるかないかという程度です。そんなことで，カラマツもトドマツも安心して使っていただきたいと思います。

表１　ノースランドパネルの最近の主な施工例

施工年	施　工　場　所
平成元年	旭川市：北海道立林産試験場管理棟　中標津町：中標津空港管理棟　帯広市：森林総合利用促進事業休憩施設　清里町：郵便局舎　平取町：総合案内施設　留辺蘂町：公営住宅　雄武町：栄丘小学校　砂川市：中央小学校　帯広市：グリュック王国　大阪府蓑面市：あかつき老人ホーム　仁木町：銀山中学校　壮瞥町：ＪＲ有珠駅　清水・鹿追線交通安全駐車公園施設
平成２年	訓子府町：訓子府中学校　穂別町：穂別小学校　留辺蘂町：マリア幼稚園，八方台スキー場ロッジ　門別町：富川幼稚園　旭川市：ウッドタウンＨ１・Ｈ２　三石町：本桐小学校　札幌市：常盤中学校，手稲北小学校　幌加内町：朱鞠内湖畔公衆トイレ
平成３年	長野県茅野市：車山スカイパークビラ　端野町：端野メビウス・ゴルフ場クラブハウス　札幌市：南幌養護学校，厚別南中学校　小清水町：網走国定公園小清水原生花園　上川町：大雪山国立公園大函園地施設　上士幌町：三国峠休憩施設　礼文町：桃岩さわやかトイレ　留辺蘂町：公営住宅　倶知安町：倶知安林務署　豊富町：多目的運動場
平成４年	北見市：緑が丘公園施設　砂川市：豊沼小学校　苫小牧市：第13中学校，支笏湖観光ホテル　蘭越町：森林組合事務所　小樽市：手宮西小学校　札幌市：清田小学校，手稲東中学校，平岡中央地区中学校，月寒中学校区児童会館　上川町：層雲閣グランドホテル　歌登町：歌登町ゴルフクラブ　浦臼町：浦臼中学校　網走市：レイクビュースキーロッジ　森町：石倉小学校　釧路市：運動公園スケートリンク管理棟　置戸町：置戸高等学校柔剣道場　室蘭市：児童相談所　訓子府町：訓子府中学校屋内運動場　本別新得線交通安全休憩施設
平成５年	生田原町：オホーツク文学館　浦河町：ＪＲＡ育成調教馬房　札幌市：平岡南小学校，本通小学校屋内運動場，前田中学校区児童会館，琴似小学校屋内運動場　美深町：浄化管理センター　釧路市：春採中学校　常呂町：常呂中学校　陸別町：陸別小学校　上士幌町：萩ヶ丘小学校体育館，萩ヶ丘コミュニティーセンター　赤井川村：都小学校　日高町：下水終末処理場　豊浦町：スキーロッジ　足寄町：中足寄集落センター　留辺蘂町：警察官派出所　音威子府村：地域交流センター　当別町：西当別小学校　留萌市：萌明荘　新冠町：東川小学校　大野町：中島小学校屋内体育館　風連町：ＪＡ風連　北見市：北海道網走家畜保健衛生所　登別市：支笏洞爺国立公園登別園地施設
平成６年	美幌町：北中学校　釧路市：春採中学校

お客さまとの話合いで，グレードを下げた使い方も

無垢の板は高いというイメージがあります。特に民間でお使いいただく場合は，板を張りたいけれども，高いからクロスになってしまうことが多い。

最近私どもが行っている例で，A品には入れられないB品があります。北見界隈（かいわい）のある会社ではB品をくれという。欠点があれば切り落とす，天井の高いところ，あるいは軒天に張ってしまうから問題ない，だからそれをくれと言う。このように，B品でも使い方を分かって使う分にはかなり使えるわけです。

現実の値段としては半額くらいで売りますので，B品をくれというお客さんがいる。しかし，B品を作るわけではないから，足りなくなってしまうとどうしようもないわけです。

それでA品は使い切らないが，B品だけでも困るというケースが出始めてきました。最近，**写真5**に示すように，工事現場のスーパーハウスの外壁に木を使う例が多くなってきました。去年，おととしごろから増えています。その壁板の品質はABグレード，いわゆるAとBの中間くらい，Bを含めたA品というグレードのものです。

ある程度量がまとまればそういう対応もできる。つまり，我々としては今まで量も少ないし，限られていたお客さんに間違いなく売るために，どうしても良いものを，だから高くなるということがあったわけですが，お客様との話合いでもっとグレードを下げてもいいよということになれば，歩留まりを向上させられるので，もう少し安くできる。こんなことが，少しずつ始まってきつつあります。

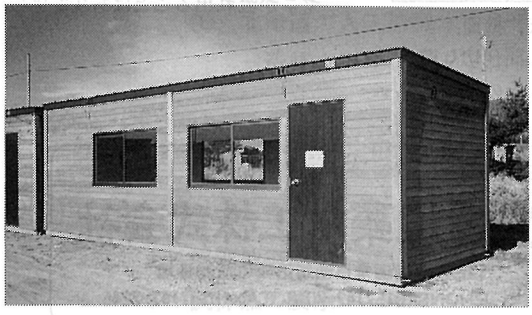


写真5　工事現場のスーパーハウス

木のフェスティバルを通して，木材関係者の垣根を越えた交流が

この地域のPRを少しお聞きいただきたいのですが，北見地方，特に中央オホーツク圏といわれているところは，林産業に関する業種が非常に多くて，北海道全体を見回してもこれだけの業種が集積している所は，この辺りをおいてないと思うくらい多い。木材産業のデパートといわれるくらい何でもある地域と思っています。それで10年くらい前から，オホーツク木のフェスティバルが開かれています。

それまでは，例えば製材屋さんは製材屋さん同志のつながり，木工屋は木工屋同志，民芸品は民芸品同志のつながりはありましたが，こういった垣根を乗り越えた交流はあまりありませんでした。

そんな中，ようやく10年ほど前から我々木材産業の中における異業種といいますか，製材，木工，民芸などの垣根を越えた交流が，木のフェスティバルを通じて生まれました。こうしたつながりを通してお互いを刺激し合うとか，相乗効果といいますか，お客さんを紹介し合うことなどが始まり，非常に楽しみにできるのではと期待しています。

今回も臨森林型産業都市構想ということで，いろいろな動きがあります。北見にも木のプラザができますが，ただ器ができたというのではなく，我々業界もそれを機能的に使っていくことが必要であろうと思います。オホーツク，北見はよその地域よりも木をよく使っている，豊富に使っているというだけでなく，高度に使っているというような地域になっていきたいと思います。

私は留辺蘂町ですが，横の動き，地域的な動きが始まっていますので，例えば置戸も津別もそれぞれの町村が刺激を受けて，今までとちょっと違った動きが始まっているように感じます。国の流れで言いますと，流域管理システムは初めは我々にはなかなか理解できなかったものですが，全国的に始まっていますので，産地間の競争が今まで以

上に厳しくなってくると思います。そういった意味でもカラマツ，トドマツだけの競合という単純なものではなく，スギ，ヒノキとの戦いとか，同じ北海道内でも地域との戦いになってくる。従来からの外材との競合などいろいろありますが，こんな中で今後もやっていかなくてはならない。それだけに，なお一層の工夫，努力，そして協力を進めなければならないと思います。

林産試験場の指導に期待

最後になりますが，今後の希望を述べさせていただきます。

私どもは，林産試験場に時々お伺いさせていただいているわけですが，林産試験場はレベルが高いので，我々業界としては何から聞きに行っていいのか，こんなことを質問して失礼ではないかなどいろいろ考えたりします。ハイレベルな研究をなさっている林産試験場さんには，どうか時々こうして来ていただくように，目線を少し下げていただくとありがたい。我々業界にもピンからキリまでありますので，言葉が少しおかしいのですが，レベルを下げていただいたり，業界のレベルに合わせてご指導をお願いしたいと思います。

地域における実践例として，私どもの会社の紹介などをさせていただいたわけですが，これで終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

（文責：北海道林産技術普及協会）

●から松・ホワイトパイン壁面材

ノースランドパネル®

●人びとが自然を強く求める今

木の温かさは私たちに豊かな安らぎを与えてくれます。

●ノースランドパネルは

自然のもつ素朴な味わいを現代的インテリア空間に見事に調和します。

●北国北海道の

風雪に耐え，素直に育ったカラ松材，トド松材のみを使用しています。

●こんな用途に

吹き抜け天井，軒天，壁面，アクセント壁面，腰壁，間仕切り壁，店舗ディスプレイ，その他。

●ノースランドパネルは

理想的な人工乾燥を経て厳選された材料のみを使用し，高精度な機械と技術から生み出されます。
当社の初期の製品は約20年を経て今なお完璧です。

●特殊乾燥法

高温蒸煮法によりヤニの溶剤分を揮発させてある為，室内温度ではヤニが流れ出ることはありません。

製造発売元

ノースランド

留辺蘂木工株式会社

〒091 北海道常呂郡留辺蘂町旭28番地
PHONE(0157)42-2018 FAX(0157)42-2245